令和６年度　第3期データヘルス計画（個別）の目標管理一覧表

| 目標 | | | | | | 評価 | 成功要因 | 未達要因 | 事業の方向性 | 最終<br>2029(R11)年度目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 評価指標<br>（アウトカム） | ベース<br>ライン<br>2022（R4）<br>年度　実績 | 2023（R5）<br>年度　実績 | 2024（R6）<br>年度　実績 | 2025（R7）<br>年度　目標値 | | | | | |
| A-① | 特定健康診査・受診勧奨事業<br>**特定健康診査受診率（法定報告値）** | 32.2% | 33.8% | 35.7% | 36.5% | A | ハガキやSMS、電話での勧奨をしたことにより、送付直前に勧奨対象者を抽出することができ、適時適切な勧奨につながった。<br>受けやすい健診体制について、 健診料金の無料化や、がん検診の複合化(大腸がん検診同時実施)、土日・レディースデーを１日設定するなど改善した。 | | 同様な対策を継続しつつ、好評だったレディースデーについては、増設を検討する。 | 42.5% |
| A-② | 特定保健指導・<br>利用勧奨事業<br>**特定保健指導完了率** | 46.3% | 49.2% | 50.9% | 52.0% | A | 特定保健指導の初回面接を、集団健診会場で実施することにより、健康意識が高い時に、生活改善の提案ができ、継続した支援についても説明できていることによる。 | | 同様の対策を継続する。 | 60.0% |
| A-③ | 生活習慣病<br>重症化予防事業<br>**受療勧奨対象者の受療率** | 27.6% | 39.3% | 35.8% | 41.6% | A | 対象者が保健指導を利用しやすいように、対象者の状況に応じた指導方法にしたことや、資材を使った有効な意識づけにより、確実な受診勧奨ができ、保健指導後の受療率は目標値を達成できたと考える。 | | 現体制を維持していく。 | 70.0% |
| A-④ | 糖尿病性腎症・糖尿病重症化予防事業<br>**受療勧奨対象者の受療率(未受療者勧奨)** | 22.2% | 72.9% | 33.3% | 25.0% | C | | 対象者の受療理解が得られなかったことや、主治医に行政の治療開始を勧める意図の伝達が行き届かなかったことから、受療率が低かったと思われる。 | 受療勧奨内容（資材利用方法・スケジュール）の工夫の継続や関係機関へ当保健事業周知を実施することが必要である。 | 25.0% |
| B-⑤ | ジェネリック医薬品普及促進事業<br>**後発医薬品使用割合（数量ベース）** | 83.7% | 85.0% | 87.5% | 86.0% | A | 後発医薬品利用差額通知や、ジェネリック医薬品希望シールの配布等、計画に沿った継続的な取組を実施したことが、目標達成の一因と考えられる。 | | 現体制を維持していく。 | 86.0% |
| A-⑥ | 適正受診・適正服薬促進事業<br>**保健指導後の改善割合** | 0.0% | 54.5% | 66.7% | 10.0% | A | パンフレットの活用等により、被保険者の理解を深めることができたことや、地区担当保健師による個別支援・関係機関等との連携による支援体制の構築が目標達成要因と考えられる。 | | 現体制を維持していく。 | 10.0% |
| C-⑧ | 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業<br>**1日30分以上の運動習慣なしと回答した人の割合** | 59.7% | 58.7% | 59.6% | 58.5% | A | 通いの場への専門職の派遣等を計画的に実施したことで、被保険者への意識付けができたと考えられる。 | | 現体制を維持していく。 | 56.5% |
| C-⑧ | 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業<br>**BMI20以下の割合（65－74歳健診受診者）** | 18.2% | 19.0% | 18.6% | 18.0% | B | | ハイリスクの対象者に健康相談や家庭訪問等を実施しているが、全数実施に及ぶことができないことによるものと考えられる。 | 結果票に低体重リスクについて周知を継続する。健診会場等にポスター等を貼り、情報提供する。 | 18.0% |

A※:改善したが目標達成が危ぶまれる　A:改善　B：変化なし　C:悪化　D:評価困難